

## 東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2019

### 「健やかに生きる ～大学は知の宝庫～」

第4回 10/22 (火) 13:30～15:00 報告

新しい音楽の聴き味わい方 ～音楽を色や形で表してみましよう～

講師 小栗祐子 (本学講師)

於：図書館中小セミナー室

\*◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*

令和元年度第4回公開講座（受講者24名）が10月22日に開催されました。子ども発達学科の小栗祐子先生による「新しい音楽の聴き味わい方～音楽を色や形で表してみましよう～」と題された講演は、数人のグループに分かれて実際に色紙を使用しての体験学習も交えた講演でした。

音楽を聴く手段としては、レコード、CD、ラジオ、スマホのほかに生演奏を聴く方法もあります。また、児童生徒の場合、音楽の授業で先生に言われるままに音楽鑑賞をして感想を書き、先生の評価を受けるという、受動的に聴くだけの授業を受けているのが現状です。

音楽を聴いて思うこと、考えること、自分以外の人の考えを聞くなどして、もっと能動的な音楽教育が行われることが理想だと思われます。

その教育方法として活用されている“図形楽譜づくり”についてお話がありました。図形楽譜とは、音楽を聴きながら、知覚し感受したことを五線譜ではなく、図形や図柄によって音楽構成に対応した色や形で表現したものです。今回は、色紙を切ったり折ったりして自由に表現してもらいました。

手始めに、小栗先生による琴の演奏で『さくらさくら』を聴き、参加者には形、色をイメージしてもらいました。今回は指定された形、色から二者択一方式で挙手してもらいましたが、参加者の中にはどちらでもない、という率直な意見もありました。

琴の独演のため、弾ける音や単音によるはっきりした音、鋭い音として聴き取った参加者が大半で、四角形と丸では、圧倒的に四角形をイメージした人が多かったです。

また、色については、曲のタイトルに『さくら』とあるため、先入観でピンクを選ぶ人達もみえましたが、音楽として聴くと必ずしもピンクとは言い切れない、との意見もありました。

小栗先生によると、どちらを選んでも正解であるとの解説がありました。

次に、『さくら変奏曲：第一変奏』を CD で鑑賞し、個々に図形楽譜を作成しました。代表して発表した参加者は、小さい音から大きい音への広がりを感じたこと、その広大さは海を連想、太陽に照らされピカピカ光る波が自分に迫ってくる柔らかさを、ハサミではなくちぎり絵的に表現したことを説明しました。これについて小栗先生は、今回の演奏は琴三面による三重奏であり、徐々に旋律に幅広い動きが出てくるため、音の広がりが感じ取られたことの根拠となる音楽の構成要素についてラベリングされ、評されました。

音楽の構成要素である「旋律」「音色」「速度」「音の強弱」「音の重なり」「リズム」など、音楽を分析的に聴く人もいれば、感受性のみで聴く人もいます。両者を結び付けるとどうなるか、その実践として今度は『さくら変奏曲：第六変奏』を CD で鑑賞し、グループでお互いの意見を出し合いながら 1 つの図形楽譜を完成させました。同意見もあればそうでない考えもあります。自分の意見は責任を持って発言し、他者の意見も尊重しながら、言語コミュニケーションを図ります。グループで行うことにより、お互いに音楽理解を深め、新たな理解の広がり、協調性、責任感などの社会性を養う結果にもなりえます。

幼少時期から他者との関わり方を考えさせることも学校教育の一環であると考えます。図形楽譜の意義、活動をとおして、今後も学校教育の中で少しずつ紹介していきたいと述べられ本日の講演は終了しました。

【講座の様子】

